

62 曲直瀬養安院文書の研究 (四)

—補遺—

小曾戸¹⁾ 洋・町²⁾ 泉寿郎

1) 北里研究所東洋医学総合研究所医史学研究所

2) 二松学舎大学東アジア学術総合研究所

昨年の本学会学術総会で演者らは「曲直瀬養安院文書の研究」と題し、三報にわたり、愛知県知多郡在住の後裔、曲直瀬暢夫氏の保有する家伝資料とその家系について概報した。これら曲直瀬家伝資料は北里研究所東洋医学総合研究所医史学研究部に搬出して鋭意修復を行い、平成十七年四月に作業を終えて曲直瀬家に返納したが、その際、同家よりさらに新出資料の提示を受けた。また昨年の既報に漏らした資料もある。よってここにその補遺を行う。

① 「近衛信尹書簡」一幅。近衛信尹（のぶただ、一五六五～一六一四）は安土桃山時代の公卿で、詩歌に勝れ、書家としても名高い（寛永の三筆の一人）。

「連々合薬調進之処、相應之事、依叡感院号養安院之由候。先年法印、今又院号之事、且者於予所令満足也。繪旨明日被認候。かしく。卯月廿五日（花押） 養安院」。慶長五年（一六〇〇）院号下賜時のものである。

② 「近衛信尹書簡」一幅。①の写し。

③ 「近衛信尹書簡」一幅。「印判之事、精入、本望候。

于時待入候。返々倉卒出来令祝着候。以上。廿四日 双眼国師（花押）。文禄元年（一五九二）初代正琳の法印叙任時のものであろう。

④ 「近衛信尹書簡」一幅。「濃州折紙河内守之状二披見候。先いづれも平くハいなる書中共也。屏風之事不知候。其上甚十郎などか我々二理運にハえとりつくましく候。とかく不知候。以上。九日 養安院（花押）」。

⑤ 「傳雲龍書」対聯（いま一幅に改装）。傳雲龍は清末の官僚・文人。明治中頃に來日。「籬下寄人無媚色」「可知風骨亦纏綿」。

⑥ 「無名氏書」一幅。「憑他弱水三千界」。

⑦ 「高瑱五律書」一幅。「天地有常理、日月無遁形、飽食高眠外、大抵皆虛名、錐乏伊呂才、不失堯舜氓、何必身為相、而後致太平。辛未八月為玄珪君書、水石拙者」。

⑧ 「越智雲夢七絶書」一幅。越智雲夢は養安院五代正珪。「曾知萍水旧逢稀、下榻朝來心事違、似是山陰雪夜趣、君今□棹又何帰。右仙樓小集、仲縁不至、賦此贈、越正珪」。

⑨ 「烏丸光広和歌」短冊。烏丸光広(一五七九〜一六三八)は安土桃山、江戸前期の公卿で、歌人として著名。「いにしへの代々のみゆきの□□□華の名たかきみよしののやま」。

⑩ 「系図(二溪道三、亨徳院)」一紙。

⑪ 「系図(養安院、啓迪院、宗円)」一紙。

⑫ 「一柳家御系図包紙」一紙。

⑬ 「一柳家御系図包紙」一紙。

⑭ 「一柳家系図」一紙。

⑮ 「一柳家系図」一紙。

⑯ 「繪旨并御書之写包紙」一紙。

⑰ 「繪旨写」一紙。慶長五年四月二十六日。左少弁総光↓養安院。

⑱ 「繪旨包紙写」一紙。⑰の包紙。

⑲ 「養安院(正琳・正円・玄理・正球)略歴」一紙。

⑳ 「養安院(正琳・正円・玄理・正球)略歴」一紙。

㉑ 「曲直瀬家代々石塔図」一紙。

㉒ 「一有玄理法印之塔図」一紙。

㉓ 「御先祖御一家方ノ外ニ立成之石碑ノ図」一紙。

㉔ 脇指一振。無銘(寿命)。「重修寛政諸家譜」の曲直瀬正琳の項に「太閤より備州信家作の小刀を授けらる」とあるものに相当。

㉕ 短刀一振。無銘(兼光)。

(本報告は平成十七年度文部科学省科研費特定領域研究「江戸のモノづくり」A1「江戸時代医学・本草学資料の整理と研究」の一環である)